

調査結果のまとめ

本市の自然環境並びに各分野における調査結果は、これまでに記したとおりである。本来自然とは、人間の手が全く加わらない状態を指す言葉であるが、本市の自然環境を考える場合にはもう少し広義にとらえる必要があると思われる。すなわち、市域にあっては全く人の手の加わらない自然というのは限られるのは当然のことであろう。しかし、宇部市においては本調査に報告されているように市域北部に本来の自然が一部でも残されていることは貴重である。また、たとえ人間の手が加えられた（例えば植林された）二次的、三次的自然であっても、新しい食物連鎖や環境適応によって新たな生態系が形成され、これらはやはり人間の生活にとっては当然自然環境としてとられられることになるであろう。このような様々な形態による自然も含めて、本報告書は本市の持つ自然環境をでき得る限り明らかにしたものである。

特に小野湖周辺地域、霜降山地域、東部海岸地域の3地域は「宇部市環境基本計画」においても、本市の重要な地域としてそれぞれ特色ある自然環境を保っており、貴重な存在である。地形・地質、植生及び動物、鳥類等の相互関係から生まれた生態系はでき得る限り現状を保存し、今後はそれらと共生し、それから学び、それらを楽しむという生活の模索をする必要があるものと思われる。

第2章から第7章までの調査結果では、平原岳及び小野湖周辺は植生豊かで緑濃く、多くの小動物が生息し、また野鳥の宝庫ともいえるような自然が保たれている。

霜降山は市街地北部に近接している山地で、その地形、植生から鳥の渡りの中継地、あるいはミサゴ、オオタカなどの貴重な生息地として重要であるとともに、市民がハイキング等で自然と接し、自然から学ぶことのできる大切な地域である。東部海岸は、家が接近し、開発が近くまで及んでいるが、海岸には地質、植生、野鳥などの自然が残されており、また、学術上貴重なあるいは希少価値のある鉱物種や植物種が認められる。常盤湖は市街地にあり人工的な部分が多いが、人と自然の共生が楽しめる市民の憩いの場である。

また、上記以外の地域では、厚東、二俣瀬地域においても、貴重な植物種、希少な昆虫類、厚東川河口では、ベッコウトンボなどの希少な蜻蛉類やカモ類・カモメ類など多くの鳥類が記録されている。

一方、真締川においては、都市河川で河川規模が小さいにもかかわらず、タナゴ類が記録されるなど比較的生物の多様性が高いことが確認できた。

本報告書が一応本市の自然環境の現状をほぼ把握できるような形でまとめることができたのは、今回の調査結果のみでなく、調査員の長年にわたる各専門分野における蓄積されたデータ及び知見にほかならない。

こうした調査結果を広く市民・事業者へも広く活用していただき、本市の自然環境の保全に努める指針として活用していく必要がある。